

令和元年度 福島県
「大学生の力を活用した集落復興支援事業」

小野町谷津作行政区 実態調査報告

獨協大学地域活性化プロジェクト米山チームPart 2

目次

1. はじめに
2. 小野町谷津作地区の概要
3. 小野町谷津作地区の現状
4. 小野町・谷津作行政区の抱える問題と課題
5. 課題解決のための考察と企画提案
6. おわりに



1. はじめに

メンバー一覧：獨協大学地域活性化プロジェクト米山チームPart 2

学科	学年	名前
英語	3	菅野沙耶
言語文化	3	古川恵理
経済	1	風口大和
経済	1	木村捷人
経済	1	清水空
経済	1	白鳥翔太
国際環境経済	1	緒方優姫
国際環境経済	1	塩野未玖
国際環境経済	1	鈴木結
国際環境経済	1	常盤知里

委嘱内容：小町温泉源泉「大地の泉」を活用した地域活性化

活動日程：2019年9月28日・29日現地視察・意見交換会

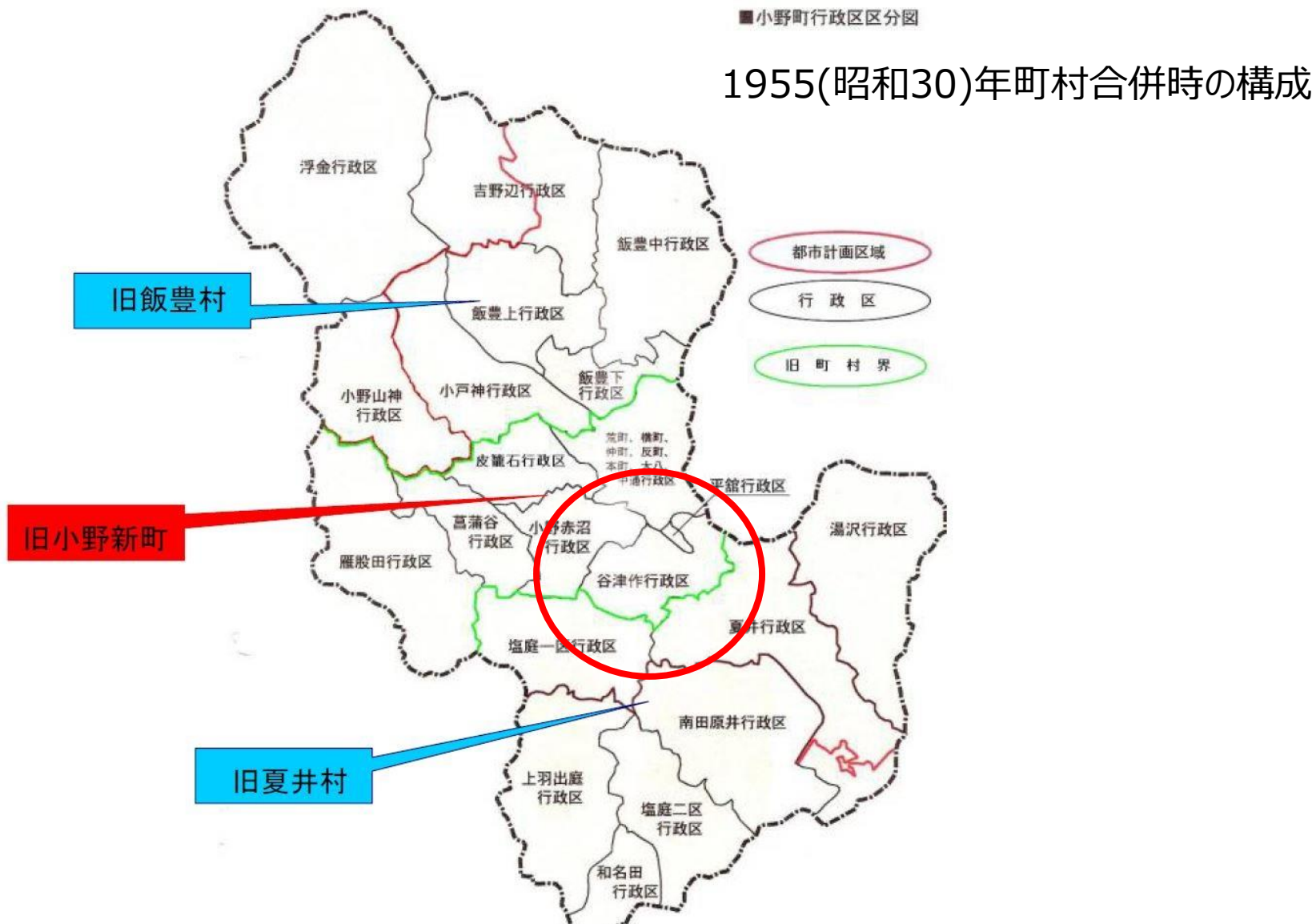
2020年2月9日現地視察・意見交換会

2. 小野町谷津作行政区の概要

2.1. 小野町谷津作行政区の位置

2.2. 小野町谷津作行政区の概観

2.1. 小野町谷津作行政区の位置



[出典]「都市と田園環境の共生等のあり方について」(事例発表)(小野町地域整備課)(以下のURL参照)
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/29929.pdf>

2. 小野町谷津作行政区の概観



[人口]

- 小野町9,672人(男性4,758人、女性4,914人)
世帯数:3,465世帯
(令和2年1月1日)
- 谷津作行政区 987人(男性478人、女性509人)
(令和2年1月31日)

[生活圏]

- 郡山市といわき市の中間に位置しており、生活圏も両方に掛かる。
郡山JCTから車で約30分、いわきJCTから車で約25分
JR磐越東線で郡山駅から、50分、いわき駅から45分

[小野町の沿革]

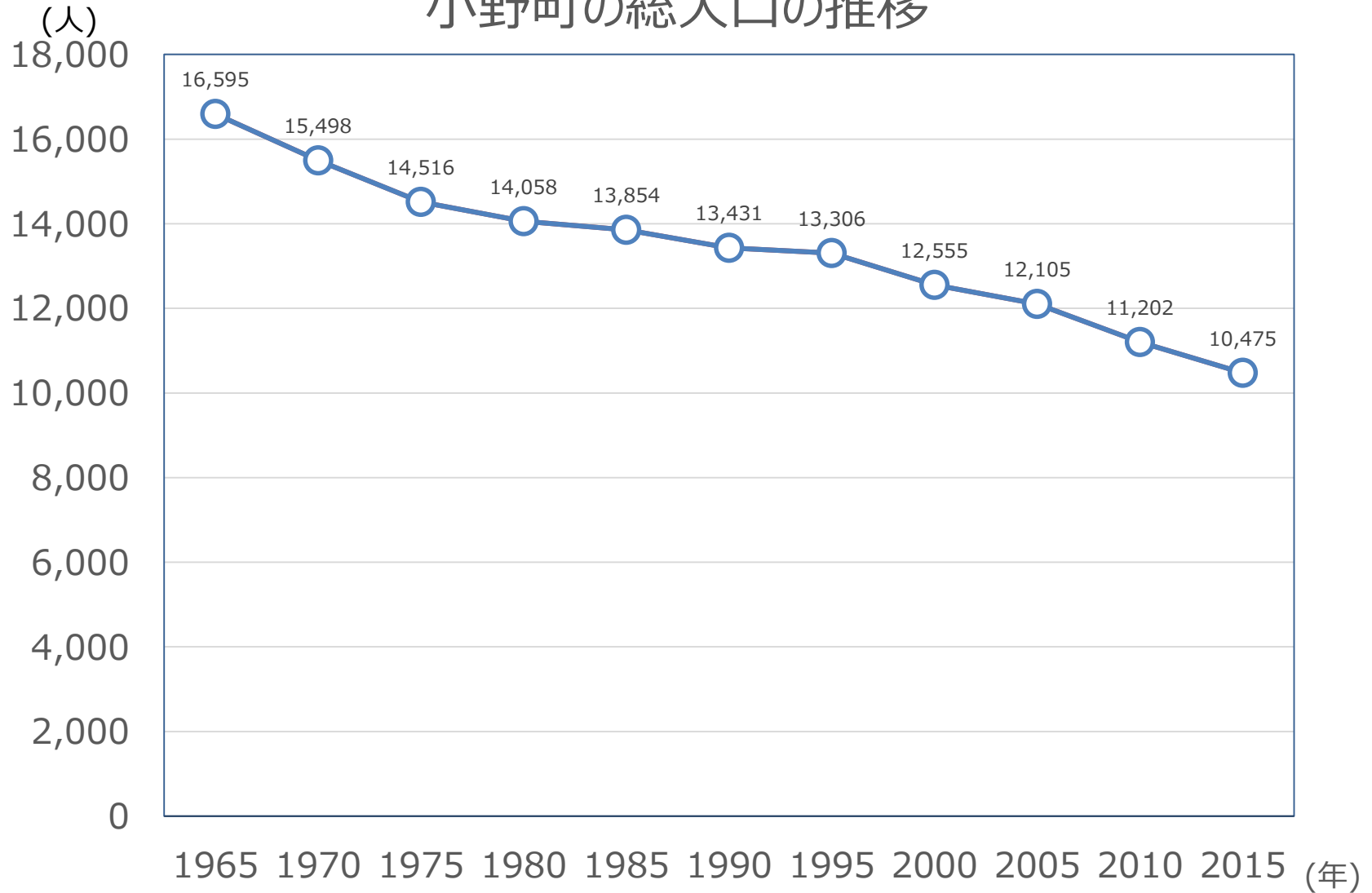
1889(明治22)年	飯豊村、小野新町村、夏井村が誕生
1896(明治29)年	小野新町村が小野新町に
1955(昭和30)年	小野新町・飯豊町・夏井村が合併、小野町が誕生

3.小野町・谷津作行政区の現状

- 3.1. 小野町・谷津作行政区の人口動態
- 3.2. 小野町谷津作行政区の地域的特性
- 3.3. 小野町谷津作行政区の暮らし
- 3.4. 小野町の産業
- 3.5. 小野町・谷津作行政区の地域資源

3.1. 小野町・谷津作行政区の人口動態

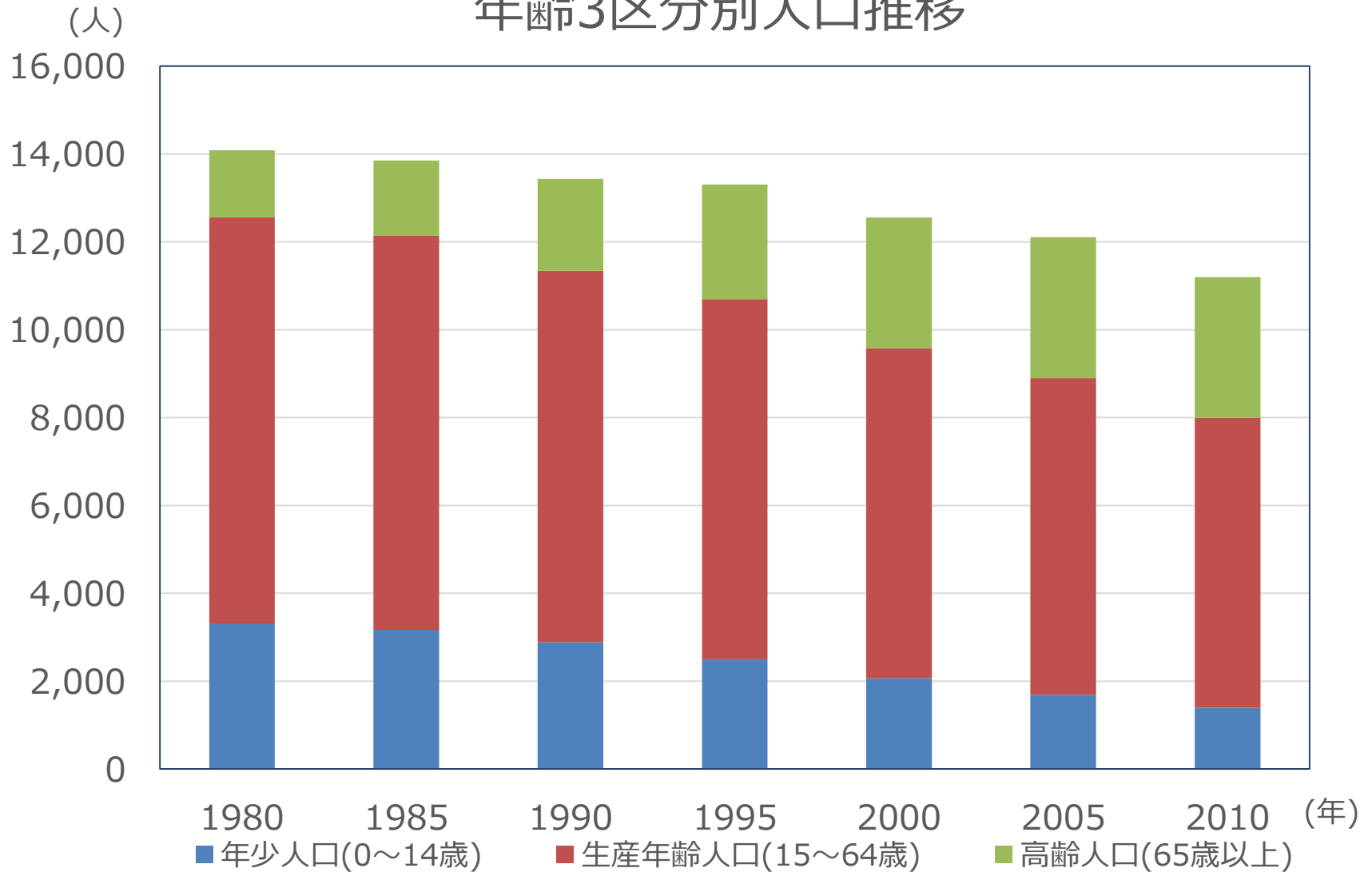
小野町の総人口の推移



[出典]小野町公共施設等総合管理計画を基に作。

3.1. 小野町・谷津作行政区の人口動態

年齢3区分別人口推移

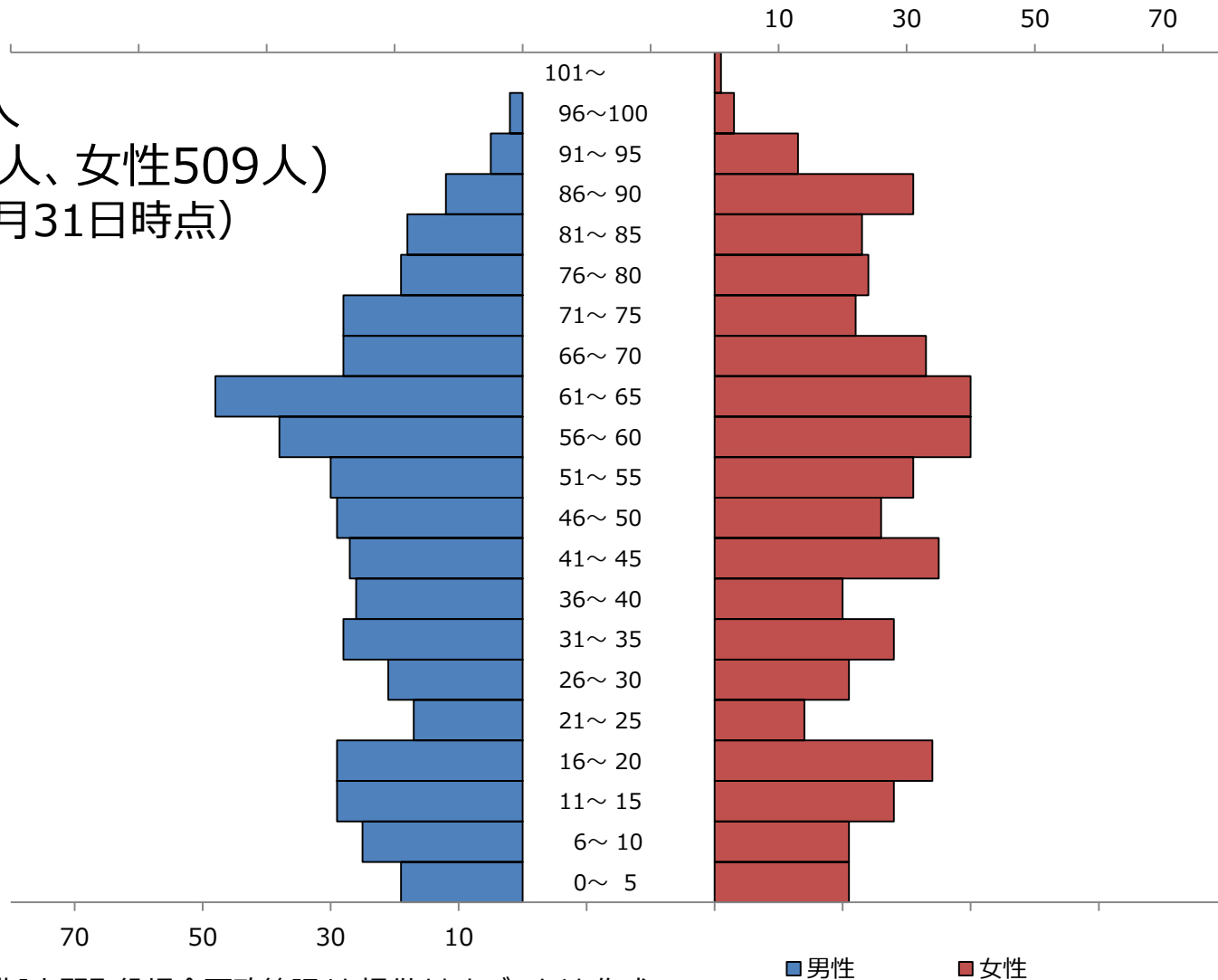


[出展]小野町公共施設等総合管理計画を基に作成。

3.1. 小野町・谷津作行政区の人口動態

谷津作行政区の人口ピラミッド

人口987人
(男性478人、女性509人)
(令和2年1月31日時点)



[出典]小野町役場企画政策課より提供されたデータより作成

3.2. 小野町谷津作行政区の地域的特性

- 町の中央を太平洋に注ぐ右支夏井川が流れ、平坦地を形づくっている。
- 標高は市街地で400メートル
- 阿武隈高原中部県立自然公園に囲まれた中山間地域。
- 四方を標高700メートルを越える山々が囲む。
- 町内の3カ所が「**ふくしま緑の百景**」に選定されるなど、優れた自然環境に恵まれている。

東堂山のスギ

諏訪神社の大スギ

高柴山のツツジ



3.2.1 小野町の気候・地理的要因

年	気温（度）			年間降水量 （ミリメートル）	平均風速 （毎時メートル）	年間日照時間 （時間）
	平均	最高気温	最低気温			
2014年	10.6	35.5	-9.9	1,320	1.2	1,745.7
2015年	11.4	36.0	-9.3	1,093	1.2	1,719.9
2016年	11.5	33.5	-10.3	1,164	1.2	1,723.9
2017年	10.6	35.1	-9.5	1,126	1.2	1,656.2

[出典]小野町公式ウェブサイト「小野町の気候」(以下のURLを参照)
<http://www.town.ono.fukushima.jp/soshiki/2/gaiyou.html>

- 内陸性の気候で、山々に囲まれていることから山岳気候を呈する準高冷地
- 冷涼な気候や昼夜の温度差といった平坦地では得ることのできない特性を活用し、水稻を主とした野菜、畜産、きのこ、葉たばこなど多様な農作物を生産

3.3. 小野町谷津作行政区の暮らし

①交通手段

通学・・・小中学生は徒歩、自転車、自動車による送迎。学校から距離がある地区ではスクールバスが出ている。

郡山などの高校に通う高校生は電車(JR磐越東線)を使うのが一般的。

通勤・・・小野町内・外にかかわらず、移動は自動車。

*バスやタクシーもあるが日常的には使われていない。

②生活インフラ

学校、病院、幼稚園、スーパーも充実しているため生活には困らない。

③公共福祉施設

スポーツ施設・・・小野町B&G海洋センター

小野運動公園

図書館・・・小野町ふるさと文化の館

3.3. 小野町谷津作行政区の暮らし

商店街の様子

- 街の活気があまりない。
- 駅近くでもシャッター街になっているところが多い。
- 食堂などはチェーン店ではなく個人経営がほとんど。



Uターン移住者にヒアリング

震災後5年前に、Uターンしてイタリアン・レストラン、[circolo・il・piccolo・campo](#)(チルコロ・イル・ピッコロ・カンポ)を経営する若いオーナーシェフ、橋本さんご夫妻にヒアリング



[得られた情報]

- 小野町には小野町で生まれ育った方々が多いため、少し閉鎖的。
- 地域内の強いつながりが強く、輪に入りにくい。
- 田舎暮らしと聞くと自然と触れ合う機会が多そうだが、実際は少ない。

3.4.1. 小野町谷津作行政区の産業の概観

①小野町産業別就業者数の推移（昭和35年と平成22年の比較）

第1次産業：4,263人(↓)

第2次産業：930人(↑)

第3次産業：315人(↑)

②製造業

小野町には21の企業工場が所在

⇒以下に例：**青字の企業**が谷津作に所在

企業名	業務内容
リトルファクトリー株式会社	リカちゃん人形の製造・販売、観光施設「リカちゃんキャッスル」の運営
東レACE株式会社福島工場	窯業系外壁材、繊維補強セメント板「完璧」製造
株式会社オーブコーポレーション	シャツ・ブラウスの製造
シューテックオカモト株式会社	スポーツシューズ、革靴等の製造

3.4.2. 直売所「おのげんき」

震災後、小野町を元気づかせるために建てられた。名前もそれに由来している。地元の野菜、工芸品などを中心に販売。地産地消を推進。

店員、買い物客、出品者にヒアリングを敢行



[得られた情報]

- 地元の農家の人たちが作った野菜などがたくさん売られていて、地域の人たちは信頼できる野菜を買うことができる。
- 生産者が直接届けたりしているので、生産者の顔がわかって安全であると店員が言っていた。
- スーパーに人が流れてしまう。
- (砂糖パンが)テレビに何度か報道されてから多くの客さんが買いに来るようになったが、後継者がおらず、お店が続いていくかわからない。

3.4.3. 小野町の物産品

- 砂糖パン(扇屋菓子店)
- アイスバーガー(シェフリー松月堂)
- おのっこ一笑漬け(田村地方の郷土料理)



3.5. 小野町・谷津作行政区の地域資源

3.5.1. 小野町温泉源泉「大地の泉」

3.5.2. 東堂山

3.5.3. 鹽竈神社の例大祭

3.5. 小野町・谷津作行政区の地域資源

- 小町温泉源泉「大地の泉」
- 東堂山満福寺：大杉、鐘楼、羅漢像が見応えがあり
- 鹽竈神社の例大祭：宮城県塩竈市にある鹽竈神社が総本社
- 夏井川千本桜
- 諏訪神社の神木翁杉・媼杉(じじすぎ・ばばすぎ)：国の天然記念物、樹齢1200年
- 高柴山のヤマツツジ
- 矢大臣山
- リカちゃんキャッスル：1967(昭和42)年に発売された初代リカちゃん以来の歴代の製品を展示するミュージアムが併設



3.5.1 小町温泉源泉「大地の泉」



3.5.2. 東堂山



3.5.3. 鹽竈神社の例大祭



4. 小野町・谷津作行政区の抱える問題と課題

4.1. 現地調査から得られた問題点

4.2. 問題点から設定した取り組むべき課題

4.1. 現地調査から得られた問題点

① 地域住民が交流できる場所が少ない。

地域の人が集まったり、若年齢層の遊ぶ場所が少なく、郡山市やいわき市に出掛けてしまう。

② 自然が有効活用されていない。

小野町では自然環境が豊かだが、それらが上手く活用されていない。

③ 地域の活気が少ない

お祭りのときは賑わいが見られたが、地域の活気が感じられなかった。

④ 少子高齢化、後継者不足

若者の人数もどんどん減っていき、お店や農業などの後継ぎがない。若者は高校、大学や仕事でほかの町へと出て行ってしまう。

⑤ 移住してきた方々がコミュニティに入っていくにくい。

小野町で暮らし育った方々が多いのでその輪に入るのは大変。

⑥ 交通の便が悪い

バスの本数が少なく、車を所有していないと移動ができない。

4.2. 問題点から設定した取り組むべき課題

- 小町温泉源泉「大地の泉」を活用したまちづくりを考える。
- 谷津作行政区だけでなく、小野町全体で、子どもたちも含め、地域の人を巻き込んで、まちづくりを考えていく。
- 小野町の歴史・魅力など地元学をしっかりと地元住民が学び、町外の人にも知ってもらう。



地域に活気をつける。



つながりをさらに深め、多くの問題の解決を目指す。

5. 課題解決のための考察と企画提案

5.1. まちづくりマルシェの開催

5.2. 温泉開発モデルの選択肢と工程表を提示

5.3. 温泉を活用したまちづくり講演会・アイデアコンテストの開催

5.1. まちづくりマルシェの開催

【目的】

まちづくりの機運を盛り上げるために、マルシェを開催。若者を巻き込み、自分たちが町の未来を考えていくんだという、当事者意識を醸成。

【概要】

- 夏頃に小学校の校庭を使って開催
- 小野町産の野菜・特産品
- 小野高校生が開発した商品
- 模擬店販売・音楽発表等イベントも実施
- 中高生・大学生のボランティアを動員

【期待される効果】

- 小野町の魅力・良さを地元住民が認識して、町外の人々にも伝えていく環境を整える。
- 若者が関わることで、地域を活性化。
- U・Iターンの移住者を含めて、地域の人々がさらに仲良くなれる。
- 私たち学生も地域の人と関わり、小野町について知ることができる。



越谷市で開催されたマルシェAcha Achaの様子

5.1. まちづくりマルシェの開催

マルシェ	コンセプト・特徴	開催頻度	ホームページ
Farmers Market @UNU	LIFE WITH FARM— 野良を目指して—	毎週土日、青山の国 連大学前で開催	http://farmersmarkets.jp/
すみだ青空市ヤッ チャバ	食を介して人をつなぐ。 人を介して地域をつなぐ。	毎週土曜、曳舟駅前 で開催	http://yacchaba.tokyo/
太陽のマルシェ	日本最大級規模の都 市型マルシェ	毎月1回、土日 勝どきの月島第2児童 公園にて開催	http://timealive.jp/marche/report/#
Acha Acha(あ ちゃあちゃ)	まちをリビングにするマル シェ	年1回5月、越谷市で 開催	https://acha-acha.wixsite.com/event
新そば収穫祭&軽 トラマルシェ	瀬川地域づくり協議会 が獨協大学セガワ応援 隊の協力を得て開催	年1回、11月に瀬川住 民センターで開催	なし

5.2. 温泉開発モデルの選択肢と工程表を提示

温泉開発モデルの選択肢	まちづくりに期待される効果	予算	今後の予定
1. 宿泊施設(旅館・ホテル)	<p>★★★★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊客は地域にお金を落とす金額が最も大きい。 ・雇用やサポーティングインダストリーへの派生需要も生まれる。 	<p>★予算の捻出が課題</p>	<p>温泉開発業者に湯量や温度、立地を視察してもらう必要あり(現在、パートナーを選定中)</p>
2. 日帰り温泉施設	<p>★★★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に入りに行ける。 ・地域コミュニティの新しい場となる。 ・雇用やサポーティングインダストリーへの派生需要も生まれる。 	<p>★★大きい。予算の捻出が課題</p>	<p>温泉開発業者に湯量や温度、立地を視察してもらう必要あり。</p>
3. 足湯、または足湯カフェ	<p>★★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に行ける。 ・地域のコミュニティエリアとなる。 ・若年齢層の遊ぶ場所にもなる。 	<p>★★★大きい浴場を作らない分だけ少なく済む。</p>	<p>専門業者でなくても、地元建築会社と建築可能ではないか。</p>
4. 温泉を使った商品開発	<p>★★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温泉成分の水を利用して栽培したコメやその他の新商品を開発して新たな特産物となる。 	<p>★★★★建物を立てないので、予算は小</p>	<p>温泉の効能を売りにした商品ができるか、全国の成功例を調査</p>

5.3. 温泉を活用したまちづくり講演会・アイデアコンテストの開催 (提案)

[講演会]

地域住民に公開で、全国の温泉開発でおこしに成功した事例について講師を招聘して講演会を開催。

[これまでチームで出たコンセプト]

SDGs達成に貢献することを打ち出して、これをコンセプトにしたまちづくりの拠点にする。

- エコツーリズムの拠点に：若い世代などを小野町に呼び込み、田村地方の観光、農業体験、森のトレッキングなどを行ったのちに、温泉に浸かってもらうイベントを開催
- 再生可能エネルギーの普及に：太陽光発電パネルを設置して、再生可能エネルギーを利用した施設に。再生可能エネルギーを学ぶスタディツアーに。
- 草屋根にして、断熱効果を高め、光熱費を押さえる。
- 地元の林業への支援：小野町産の木材を使用して施設を建設

[アイデアコンテストの開催(提案)]

- 地元住民を巻き込んで、地域でみんなで作っていくという意識になってもらうために住民からアイデアを募る。
- 白紙の段階でアイデアコンテストを開催するか、少し方向性を決めたのち、細かな仕様に関してアイデアを求めるか、

6.おわりに

[1年目の振り返り]

- 今回の視察を通して小野町の良さに触れることができ、地域のつながりの強さを実感するとともに、さまざまな問題点が見えてきた。
- 谷津作行政区だけでなく、小野町、さらには田村地方まで含めた広域連携で考えていく必要がある感じた。

[今後に向けた計画]

- 温泉開発の専門家に調査依頼したり、住民の意識調査も行って、小町温泉の方向性を検討していきたい。
- SWOT分析ほかを行って、小野町の「温泉を活用したまちづくり」の強みと弱みを把握して、最適な温泉開発モデルを提案していきたい。
- 小野町の調査を進めてさらに小野町谷津作行政区についての理解を深め、地域住民の皆さんと交流を増やし、地域でまちづくりの機運を高めながら、最善の提案をしていきたい。

ご清聴ありがとうございました。

